



令和 8 年度 6 月号

矢中だより

大田区立矢口中学校 URL <https://www.ota-school.ed.jp/yaguchi-js>

みんなが主役となった運動部門

校長 堀 孝浩

前日まで雨が降りましたが、5月23日（土）に矢中祭運動部門を無事開催することができました。当日は肌寒い気候でしたが、朝早くからテントの設営や水たまりの除去、グラウンド整備など準備を行い、生徒たちの熱気と保護者・地域の皆様の声援で、校庭に集まった全員が一体となることができました。心より感謝申し上げます。

今年の運動部門のスローガンは「雲外蒼天～みんなが主役 限界のその先へ～」でした。雲外蒼天とは、雲の上には青空が広がっているように、努力して困難や試練を乗り越えれば、その先にはすばらしく明るい未来が待っている、という意味です。どの学年も競技の結果だけでなく、仲間と協力することの大切さや、係活動で行事を作り上げることの大切さを感じた生徒が多く、学校行事だからこそ味わえる経験を積むことができました。

運動会の歴史をひもとくと、日本で初めて催されたのは、1874年（明治7年）3月に、東京・築地にあった海軍兵学寮で行われた「競闘遊戯会（きょうとうゆうぎかい）」とされています。明治時代は、西欧の技術や習慣を積極的に取り入れていた時代で、イギリスから招聘されていた講師が、心身の鍛錬とレクリエーションを目的としたイギリスの「アスレチック・スポーツ」をベースに企画・実施したそうです。その後、明治11年には札幌農学校で、さらに明治20年代には各地で行われるようになり、競技力を競うだけでなく、みんなが運動に親しむということで、様々な競技・種目が行われてきました。今ではすっかりおなじみとなった全員リレーは、1本のバトンをクラス全員でつなぐことで、クラスの団結力を高め、全員が主役になれる種目として1990年～2000年代に普及したと言われています。私自身が学生の時は、全員リレーをしたという記憶がないのですが、教員になったときにはすでに運動会の種目として入っており、これまで勤務したすべての学校で全員リレーは行われていました。「走るのが得意な生徒がテイクオーバーゾーンぎりぎりまで走ってバトンパスをする」、「スタートダッシュで引き離せるよう走順を考える」など、様々な作戦を立ててリレーに臨むのもこの競技の醍醐味です。当日に向けて生徒たちが一生懸命取り組んだ姿は本当に立派でした。

学年優勝は1年4組、2年2組、3年2組、敢闘賞は7組という結果になりましたが、自分自身、クラス、学年の成長の機会となったことは間違いありません。限界に臨んだからこそ味わえるうれしさや悔しさの感情をぜひ成長の糧としてほしいと思います。



わいわい教室（サポートルーム）について

5月29日（金）に、東京都教育庁の方2名が来校され、わいわい教室を視察されました。大田区ではすべての小・中学校にサポートルームが設置されており、本校は拠点校の御園中学校の巡回指導教員により指導を行っています。

週1回、1時間の指導の中で、ソーシャルスキルトレーニングや小集団活動を行い、生徒自身の課題克服に向けて様々な活動に取り組んでいます。

サポートルームでの指導を希望される場合は、本校特別支援教育コーディネーターまでお問い合わせください。

生徒に興味をもたせるための教材や教具をそろえています。



個別指導スペースで指導を行っています

第2回学校運営協議会を行いました

6月1日（月）に第2回の学校運営協議会を開催しました。当日は授業を参観した後、スクールサポート矢中の取組について協議を行いました。

これまで学校がお休みとなる土曜日にも活動が行われていましたが、活動を行う上での配慮事項や安全管理などについて様々な意見が出されました。次回は、これまでニーズのあった英検2次面接練習の実施方法について検討を行います。

6月10日(水)～12日(金) 7組移動教室

特別支援学級合同移動教室が6月10日から12日までの2泊3日で行われ、長野県・山梨県に行ってきました。2日目のキャンプファイヤーは雨のためキャンドルサービスの実施となりましたが、それ以外はおおむね天気にも恵まれ、各施設の見学や飯ごう炊さん、田植え体験など、東京では経験できないことをたくさん経験することができました。参加した生徒たちはみんな楽しく取り組み、「自然に親しむ」、「体を鍛える」、「自分のことは自分です」、「みんなと仲良くする」の4つの目標を達成することができました。



高根クラインガルテンでの田植え体験



飯ごう炊さんでカレーライスを作りました



参加した全校で実施したキャンドルサービス



滝沢牧場での動物ふれあい体験